

メガソーラーで採用

盗難防止効果など期待

古河電工は16日、施工性が高いアルミ電線がメガソーラー発電所で採用されたと発表した。アルミは軽さに加え、一般的な電線導体として用いられている銅よりも素材価格が安価なこと特徴。近年

多発する銅線の盗難に対する防止策としても、アルミケーブルの有用性が期待されている。

今回山梨県のメガソーラー発電所で採用された高機能型の低圧アルミ導体CVケーブル

「らくらくアルミケーブル」は、同社と子会社の古河電工産業電線が開発・製造。昭和電線ホールディングスと古河電工が合弁する建設用電線の販売会社であるSFCが販売している。

メガソーラー発電所をはじめとする産業用太陽光発電所は敷地が広く無人であることなどから、銅線の転売を狙ったケーブルの盗難被害の防止が課題となっている。加えて盗難被害が発生した際は、

売電などへの影響を抑えるため早期の復旧が必要となる。採用は盗難防止と早期復旧に貢献可能なことなどが評価された。

「らくらくアルミケーブル」は導体にアルミを採用しているほか、ケーブルの外皮が青く、銅導体品との識別が容易なため盗難防止効果が期待できる。さらに軽く柔軟で施工性が高く、配線作業の効率を高められることから、早期復旧に資することができる。

